

高等教育活性化シリーズ 207 (通算 522 回)

2012 年 3 月 27 日 (火) / 5 月 18 日 (金)

グループワークによる実体験! ——

## PBL 授業の実践に向けた具体方策と実際

高等教育活性化シリーズ 210 (通算 526 回)

2012 年 5 月 10 日 (木)

教員・学生の相互契約の実質化——

## シラバスの要件と項目・内容の作成手法 II

グループワークによる実体験! ——

## PBL 授業の実践に向けた具体方策と実際

～問題提示型・問題自己設定型・プロジェクト型・実地体験型/成績評価～

- ※ 問題発見/プロジェクト実践/主体的学習姿勢の向上/PBL 授業の普及策/PBL 教育 6 要件
- ※ 事例シナリオを用いた PBL 授業の実践/問題点と解決方法/グループ討論できる教室とは
- ※ 教員向けマニュアル/授業設計と評価/PBL 度チェック表/学習行動の記録/ポイントは巡回
- ※ 4 タイプの PBL 授業/目標と成果/大学院教育との連携/産学連携/サンドイッチ教育

● 講師 ●

鶴岡 信治 氏 / 三重大学 大学院地域イノベーション学研究所  
工学部電気電子工学科情報処理研究室 教授

2012 年 3 月 27 日 (火) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)

2012 年 5 月 18 日 (金) 追手門学院 大阪城スクエア 会議室 (大阪・天満橋)

教員・学生の相互契約の実質化——

## シラバスの要件と項目・内容の作成手法 II

～優れた事例から学ぶ実践と改善/予習へのナビ/成果評価とは～

- ※ FD から ED への進化/ヒントは学生から/コンセプト・マップ/ポートフォリオとの連携
- ※ 学修教育の全体像/学習支援計画書 (シラバス) のコンテンツ/公開の意義とインパクト
- ※ 教育改革に必須のシラバス/授業内容・評価の公平性/作成のポイント/効果的な活用

● 講師陣 ●

井上 史子 氏 / 帝京大学 高等教育開発センター 准教授  
藤本 元啓 氏 / 金沢工業大学 入試部長・修学基礎教育課程主任  
細川 敏幸 氏 / 北海道大学 高等教育推進機構 教授  
高等教育研究部高等教育開発研究部門

2012 年 5 月 10 日 (木) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)



[ 参加要領 ]

■ 高等教育活性化シリーズ 207 PBL 授業の実践に向けた具体方策と実際

□ 2012 年 3 月 27 日 (火) 13:00~16:40

剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町) 千代田区紀尾井町 3-27 TEL 03-3234-7362  
(東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口より徒歩 4 分、または JR 中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口より徒歩 10 分)

□ 2012 年 5 月 18 日 (金) 13:00~16:40

追手門学院 大阪城スクエア 会議室 (大阪・天満橋) 大阪市中央区大手前 1-3-20 TEL 06-6942-2788  
(京阪電車 天満橋駅下車 東出口 14 番より東へ徒歩 7 分、または大阪市営地下鉄谷町線「天満橋」駅下車 1 号出口より東へ徒歩 7 分)

■ 高等教育活性化シリーズ 210 シラバスの要件と項目・内容の作成手法Ⅱ

□ 2012 年 5 月 10 日 (木) 10:30~16:40

剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声 CD 送付)
高等教育活性化シリーズ 207 PBL 授業の実践に向けた具体方策と実際	41,000 円 (消費税込)	42,000 円(送料、消費税込)
高等教育活性化シリーズ 210 シラバスの要件と項目・内容の作成手法Ⅱ	42,000 円 (消費税込)	43,000 円(送料、消費税込)

※参加費の払い戻しは致しません。申込者のご都合が悪いときには、代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。

受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 \*郵便振替: 00110-8-81660

口座名 (株) 地域科学研究会

(ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒<http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/> E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

お申込み・お問合せ



地域科学研究会  
高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106  
TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2012 年 月 日

■ 高等教育活性化シリーズ 207 PBL 授業の実践に向けた具体方策と実際

□ 当日参加 (□ 3 月 27 日 / □ 5 月 18 日) □ メディア参加

■ 高等教育活性化シリーズ 210 シラバスの要件と項目・内容の作成手法Ⅱ

□ 当日参加 □ メディア参加 (□ に ✓ 印を入れてください)

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

連絡部課・担当者名 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法 (□ 郵便振替 □ 当日払い □ 銀行振込) 必要書類 (□ 請求書 □ 見積書)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

医学教育を中心に発達した PBL。学生が主体となって課題に取り組むことで、生涯学習の態度が身につく教育手法として評価され、医学系以外の学部においても導入されるようになりました。「教育から学習へ、教員から学生へ」の転換期にある今日において、PBLには大きなヒントと仕組みがあります。

一方で、PBL 授業を導入し定着させるまでには多くの困難があります。教員にとっての最大の試練は、自らが助言者になるということでしょう。教員には今まで以上に授業設計・展開力が求められ、学生をナビゲートする力・惹きつける力まで試されます。さらに、全学展開となれば、全教職員が PBL を理解し、運営・管理体制を構築する必要があります。

本セミナーは、昨年末に開催した PBL セミナーの第二弾であり、好評につき東京・大阪の2会場で開催します。導入から全学展開に至るまでの問題解決策、そして PBL に適した机の配置まで、具体的かつ明確な講義をいただきます。また、好評を得た前回同様、PBL 形式で進行します。PBL 授業が教員にとっても楽しいものであることを実感し、笑顔でご帰校いただけることでしょう。

時間	講義項目
13:00 ～ 15:00	<p>□ PBL 授業の実践に向けた具体方策と実際 ～問題提示型・問題自己設定型・プロジェクト型・実地体験型／成績評価～ 三重大学 鶴岡 信治</p> <p>1. 三重大学の PBL 教育の位置づけと教育目標との関連</p> <p>(1) 三重大学の紹介と自己紹介</p> <p>(2) なぜ三重大学で PBL 教育が普及したのか？</p> <p>(3) 三重大学の教育目標との関連</p> <p>2. なぜ2種類の PBL マニュアルを作成したのか？</p> <p>(1) 医学部から全学展開する場合の問題点の解決方法</p> <p>(2) 事例シナリオを用いた PBL 授業の実践（1冊目）</p> <p>(3) PBL 授業を普及させる方法</p> <p>(4) 多様な PBL 授業の類型化（4つの PBL 授業タイプ）（2冊目）</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
15:10 ～ 16:40	<p>3. 学生の能動的な学習を生み出す PBL 事例（授業設計と評価）</p> <p>(1) 問題提示型 PBL 授業（1年前期の全学生向け必修 PBL 科目、eラーニングシステム（ムードル）との連携など）と成績評価法</p> <p>(2) 問題自己設定型 PBL 授業</p> <p>(3) プロジェクト型 PBL 授業と実地体験型 PBL 授業</p> <p>(4) PBL 授業の効果と課題</p> <p>4. 地域イノベーションにつながる PBL 授業（大学院教育との連携）</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>

時間	講義項目
10:30 ～ 12:00	<p>□ Educational Development の実質化とシラバス ～FDからEDへの展開／能動的学習を促すシラバス／ポートフォリオとの連携～ 帝京大学 井上 史子</p> <p>1. FD (Faculty Development) から ED (Educational Development) へ  (1) “教員だけが頑張るFD”からの転換  (2) 北米における Educational Development  (3) 学生による授業アンケートの再考  (4) EDの実質化 ～知を創造する</p> <p>2. 学生の能動的学習を促すシラバス  (1) なぜ、日本のシラバスはシラバスといえないのか  (2) 学生が求めるシラバスとは  (3) 授業時間外学習を促すヒントは学生から  (4) 学生による授業コンサルティング (SCOT)</p> <p>3. ポートフォリオで授業は変わる？  (1) コミュニケーション・ツールとしてのティーチング・ポートフォリオ  (2) コンセプト・マップとラーニング・ポートフォリオ  (3) ポートフォリオの評価 ～ルーブリックの活用  (4) シラバスとポートフォリオの連携</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
13:00 ～ 14:30	<p>□ [金沢工大] KIT 総合力評価と学習支援計画書 (シラバス) ～総合力 (学力×人間力) と評価方法／ シラバスのコンテンツと活用状況／教員相互間の内容調整～ 金沢工業大学 藤本 元啓</p> <p>はじめに 学修教育の全体像</p> <p>1. CLIP (Comprehensive Learning Initiative Process) と総合力評価  (1) CLIPの原型 (プロジェクトデザイン教育)  (2) 新学習プロセス CLIP 「学力×人間力＝総合力」  (3) 総合力評価の方法</p> <p>2. 学習支援計画書のコンテンツと活用状況 ～授業に関する学生と教員との相互契約書～  (1) 学習支援計画書の概要 (2) 公開の意義とインパクト  (3) 教員相互間の内容調整  (4) 学習支援計画書のコンテンツと実際  1) 科目の基本情報  2) 授業科目の学習教育目標  3) 授業の概要および学習上の助言  4) 教科書、参考書・リザーブドブック  5) 履修に必要な予備知識や技能  6) 学生が達成すべき行動目標  7) 総合評価割合と総合力指標 ～達成度評価  8) 評価の要点 ～評価方法・行動目標・実施方法・注意点  9) 具体的な達成の目安 ～理想的及び標準的なレベル  10) 授業明細表 ～学習内容・授業形式・学習課題 (予習・復習と時間)</p> <p>おわりに これまでの成果</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
14:40 ～ 16:40	<p>□ [北海道大] 授業設計の進化とシラバス作成手法の実際 ～教育改革とシラバスの密接な関係～ 北海道大学 細川 敏幸</p> <p>1. 大学教育改革に必須のシラバス導入  (1) そもそものはじめは学生による授業評価  (2) シラバスは教員個人が決めるべきではない  (3) カリキュラム改革は国際化、公平化、透明性から  (4) シラバスのみでは役不足</p> <p>2. シラバス作成のポイント  (1) 大学の教育目標との関係 (2) 行動目標の設定  (3) 授業内容、評価の公平性を保つ  (4) あの人にしかできない授業から誰でもできる授業へ</p> <p>3. 効果的な活用方法  (1) シラバス・コンクール (2) 学生による授業評価  (3) 授業外学習時間を増やす (4) 学修の質を保証する</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>